

鳥とぶせ総そう立てたて 船ふね木ぎ伐きるといふ
能のり登のぼの鳥とり山やま 今日けふ見みれば
木こ立たち繁しげしも 幾いく代よ神かむびぞ

七尾西湾

七尾西湾せいわん

七尾湾は、日本海“側の荒々しいイメージとはかけ離れた優しい姿をしている。

その中でも、ひととき穏やかな姿をしているのが、七尾西湾である。

七尾西湾とは、茂崎もさきと通鼻とほばなを結ぶ直線と屏風崎びんぷうさき（須曾屏風）と石崎屏風（屏風岬）を結ぶ直線、陸岸に囲まれた海域のことである。

七尾湾の中で、最も陸地深くに入り込んでいる位置にある西湾は、北湾・南湾と比べて外海の海水が入りにくい構造をしている。このことによつて、海底にはアマモ場（海草の一種アマモの群落で、水質浄化能力が高く、幼稚魚や小型動物の生息場所となる）が広がっている。

また、西湾を眺めると、どの地点からでも、対岸の陸地が必ず見える。

豊かな海

穏やかで、豊かな海を利用し、七尾西湾は、日本海側随一を誇る七尾市の牡蠣養殖の中心となっている。

西湾を望むと、水面に浮かぶ“浮き”や海面に突き出た“竹”を目にする。これらは、牡蠣を養殖するための“牡蠣棚”と呼ばれるものである。静かな海面と牡蠣棚、西湾を囲むように架かる「能登島大橋」と「ツインブリッジのと」の二つの橋